



明日に架ける橋

進路だより 第3号
2019/6/5
兵庫県立明石高等学校
進路指導部発行

□鉄は熱いうちに打て ～考査・模試の活用法～

(1) 中間考査を振り返る

みなさん、中間考査が終わって中間考査の成績が返ってきた頃だと思います。いかがだったでしょうか？計画を立てて勉強しただけの「成果」は出ましたか？結果が出た人そうでない人様々だと思いますが、みなさん点数や順位だけに一喜一憂することはやめましょう。見直して欲しいことは、「勉強という過程がうまく結果に結びついたかどうか」「自分には何ができて何ができなかったのか」「何故できなかったのか」です。違う言い方をすると「**自分のやり方は合っていたのか**」「**今の自分の力はどのようなものか**」「**失敗した原因は単なるミスなのか、別の問題があるのか**」ということです。どうしても点数が気になるというのはわかりますが、これから控える入試に向けて考えると、テストの点数は今後変化していきます。点数はテストが変われば、上がることもあるし下がることもあります。だから、気にしないでいいとはいいませんが、それだけにこだわるべきものではないように思います。しかし、物事のやり方、とらえ方は自分で意識しないと、ずっと変わりません。つまり、点数にだけ一喜一憂して、その裏にある、「現在の勉強のやり方と自分との不一致」「自分の現在の力」「そもそもの物事のとらえ方」に目をむけないと同じ失敗を繰り返します。テストの見直しをきちんと行い、抜けていたり覚えていなかったりする知識を入れ直す作業と、先ほど挙げた事柄についての考察を行ってください。

(2) 模試活用法 ～情報は力～

さて、中間考査が終わってすぐ6月1、2日と進研マーク模試がありました。さきほど中間考査の見直しについて書きましたが、この模試についても同じことが言えます。そう、「見直しが大切」ということです。見直ししましたか？

模試というものは、今の自分と志望校との間にどれほどの距離があるのかを計るツールとして利用することができます。皆さんが知っている志望校の判定（A～Eまでのもの）がそれです。今後も判定を基準に志望校を絞っていくことがあろうかと思えます。ところで、判定を見る以外の使い方を、みなさんはしていますか？知っていますか？

模試は、**定期考査以上に問題の観点がはっきり見えます。例えば、国語でいうと、【主題の理解】【内容の理解】【語句】**などです。ですので、何が出来ていて、何が出来ていないのかということが、非常にわかりやすい形で見るすることができます。それを見ることができるとは弱点の把握がしやすいということにつながります。力をつける為には、得意分野を伸ばすこともそうですが、弱点の克服も不可欠です。模試は、その弱点の把握をするのに最適な情報源です、解答解説をよく読み、有益な情報を得て、学力アップに努めましょう。

(参考)

「鉄は熱いうちに打て」

鉄は熱くてやわらかい時に打たないと鍛えることはできません。そのことから、人も純粋な気持ちを失わない若いうちに鍛錬すべきであるという意味や、物事を行うには適切な時機があるので、それを逃してはいけないという意味があります。

今、模試などを終えて「やばい、勉強しなければ！」と思った人が多いと思います。そう思っている今こそが、まさに「鉄が熱くやわらかい時」です。しっかり鍛錬しましょう。

□学校案内や募集要項（願書）の手配について

志望校調査が終わって、受験先をより具体的に意識しているのではないのでしょうか。実際に「どんな学校なのか」や「願書はどうやったら手に入るのか」について考えているかと思えます。

ここでは、進学先の資料請求の仕方について案内します。みなさんの進学先の資料や願書は**原則自分で取り寄せてください**。ただし、**指定校推薦の願書は高校で手配します**（注意：9月の選考会にて推薦が決定した生徒に対して渡します）。

みなさんの手元にテレメール（進学資料請求）のパンフレットが配布されています。このパンフレットは、パソコンや携帯電話（スマートフォン）を利用して学校案内や募集要項を請求する案内となっています。

今回のパンフレットは主として学校案内を請求するものですが、**AO入試と公募制推薦入試を予定している大学は現在から募集要項（願書）も請求できます**。最近インターネット出願が増えているため、請求資料が募集要項ではなく『ネット出願のてびき』となっている場合もあります。

AOや公募推薦を考えている人は是非利用してください。そして、一般入試のみを考えている人も、今の時期にメールアドレスの登録やパスワードを設定しておく、3月までそのまま使えるので、急な願書請求にも対応できます。私立大学の一般入試の出願は年末年始から始まりますが、その時期は進路先や配送会社も休業していることが多く、急な直接請求では出願締め切りに間に合わないことが十分考えられます。

12月になれば、進路指導室前にいくつかの私立大学の募集要項が置かれることもありますが、すべての大学の募集要項はありません。また、数に限りがあるため無くなっている場合もありますので、もう一度述べますが、「原則として募集要項は自分で取り寄せる」ようにしてください。

また、**国公立大学**の一般入試出願（前期・中期・後期とも）はセンター試験（2020年1月18・19日）翌日に自己採点をし、その結果を元にして約1週間後には受験校を決定します。今年度は2月5日(水)までに願書を提出しなければならないため、かなりタイトな日程の中で出願書類を作成し、提出する必要があります。特に遠方の国公立大の場合は願書請求から手元に到着するまでにある程度の時間を要するので、**年内のうちに受験の可能性のある大学はあらかじめいくつかの募集要項を請求しておいて間違いはありません**。

いざというときに慌てないために、この時期に願書請求の仕方を練習しておきましょう。

※今回、みなさんに配布するのは「大学・短大」用の請求パンフレットです。進路指導室前には「専門学校」にも対応したパンフレットを置いておきます（80部程度）ので、必要な人は各自取りに来てください。



今回配布のパンフレット（山吹色）

大学・短大の大学案内のほか
AOと公募推薦の募集要項も請求できます

9月に「願書請求カタログ」

12月に「ポケット版」を配布する予定です。